

# 新自由主義の破綻——「資本主義の限界」との関連で

江口健志（経済学教科委員）

## 1 コロナ危機とその背景

### (1) 医療崩壊の瀬戸際その要因——医療費抑制政策

病院・病床の削減

○1998年～感染症病床の不足→指定医療機関や感染症病床を削減

○地域医療構想（2014年）

2025年目標に都道府県に病院のベッド削減「地域医療構想」を立て実行させることで医療費抑制をはかる。

医療費のうち大きな比重は入院費→病床減らすことで入院患者が増えることを抑制しようとする。or 入院期間をできるだけ短縮することで医療費抑制をはかる

金も人もかかる高度急性期病床や急性期病床を、回復期病床に転換

病床削減と病床の機能転換⇒医師、看護師の減へ

都道府県単位で病床を管理し削減→病院統廃合の強行へ

○2019年、424公立・公的病院（感染症指定医療機関53含む）名指しで再編統合を求める

経済財政諮問会議の圧力、「無駄」「非効率」削減必要な公立・公的病院として424病院を公表へ

○医師数の抑制

### (2) 保健所（憲法25条「公衆衛生の向上及び増進を担う」公的機関）の破綻

○なぜPCR検査が進まないのか

保健所業務の破綻

○背景としての保健所統廃合

1994年、保健所法改正全国的に半減（1994：847か所→2020：469か所）

地方衛生研究所（保健所から廻ってきた検査を実際に実施）人員、研究費削減

公衆衛生の弱体化

○地方構造改革が保健所統廃合を加速

### (3) 経済危機、雇用不安、生活破壊

○新型コロナの自粛、経営危機の下で、女性、非正規中心の休業、しかも休業手当抜き  
の休業が拡大

○非正規労働者の雇い止め、解雇。大量の失業

○中小自営業、非正規、フリーランスの生活破壊

○コロナ不況

\*「平時」から生存が保障されない社会→コロナ危機に際して人々の生存を脅かす

### (4) 構造改革、新自由主義の帰結

○日本の雇用保障、社会保障の脆弱性の問題が表面化

自己責任型社会日本の問題点

- 新自由主義的構造改革の帰結
- しかし・・・「骨太方針 2020」→構造改革の継続
- 菅政権 ・デジタル化と構造改革 「災害便乗型資本主義」

## 2 新自由主義とは何か

### (1) 新自由主義とは何か

- 大企業の成長のために規制を撤廃。競争促進
- 賃金切り下げ リストラ 労働組合の抑圧
- 大企業負担の軽減
  - 法人税減税、累進課税制の緩和
  - 社会保障切り捨て。
- 労働者保護法制への規制緩和攻撃
  - ・労働者派遣法
  - ・「働き方改革」 労働時間規制の撤廃
- 衰退産業保護の規制撤廃（農業、中小企業）
- 公共サービスの民営化、民間委託
- 新自由主義イデオロギー 弱肉強食 自己責任論
- 新自由主義と強権体制

### (2) コロナ危機の前に、すでに新自由主義・構造改革の矛盾が累積

## 3 なぜ新自由主義が台頭したのか——資本主義の限界突破

新自由主義台頭の歴史的背景をつかむ必要

### (1) 高度成長とその終焉

- 高度成長の時代 「豊かな社会」
  - ・重化学工業中心
  - ・飛躍的な経済成長
  - ・人権拡大と経済成長が共存できた時代
- 高度成長の終焉
  - ・1974-5年不況 世界同時不況
  - ・過剰生産恐慌。生産と消費の矛盾
  - ・経済の成熟化
  - 利潤第一主義の資本主義・大企業にとっての限界

### (2) 資本主義の限界突破としての新自由主義

- 限界突破としての規制撤廃、競争促進。
- 生存権・社会権の解体
  - サッチャー政権による炭鉱労働組合弾圧
  - 中曽根政権による国鉄分割民営化、国労つぶし
- 競争の性格の変化——市場の限界の下での過酷な競争へ

(3) グローバル化と新自由主義・構造改革

- 市場の成熟が背景
- グローバル化
  - 多国籍企業による国際分業 国際下請制
- ソ連東欧の崩壊グローバル企業にとっての世界市場の拡大
  - 中国の改革開放政策、外資導入。→新興国・中国の経済成長
- グローバル化が新自由主義・構造改革を促進
  - 賃金切り下げ、非正規化の促進 「新時代の日本的経営」
  - \*日本の新自由主義的構造改革の特徴：対米従属下で進行
  - アメリカの圧力「対日年次改革要望書」
  - 貿易自由化
  - 「働き方改革」——労働時間規制撤廃
  - 社会保障構造改革——社会保障の公的責任の解体へ

4 新自由主義の行き詰まり

(1) 格差・貧困の拡大

- 現代日本非正規4割
- 自活型非正規の増大半失業の増大
- 「周辺の正社員」の増大

(2) 経済停滞、長期停滞

(3) バブル崩壊

2008年リーマンショック アメリカ中心の世界経済秩序の動揺  
→「アメリカ第一主義」が生まれる要因の一つ

(4) グローバル化の行き詰まり

- 空洞化国民経済バランスの崩壊
  - ・地場産業の解体
  - ・コロナ危機でマスク不足になった背景 マスクの中国依存
- 食糧自給率の低下(4割以下)

(5) 環境破壊 大量生産大量消費の限界

地球温暖化と気候変動

(6) コロナ危機

5 新自由主義の破綻と資本主義の限界

(1) この40年間の新自由主義——その破綻

単なる「政策の行き詰まり」ではない。体制問題としてとらえる必要性

- 成長至上主義の行き詰まり
  - 生産力の発展を、資本主義が制御できなくなる時代に

○資本主義の限界

(2) ポスト・コロナの時代。資本主義の民主的計画的コントロールへ

○ポスト新自由主義 ⇒資本主義を乗り越える一歩

○成長至上主義の転換

○経済の民主的計画的コントロール

あり余る生産力を、勤労者の幸せのために活用する。

◎強力な資本規制の運動、階級闘争が重要に